気にいらない鉛筆

小川未明

青空文庫

次郎さんはかばんを下げて、時計を見上げながら、

「おお、もうおそくなった。はやく、そういってくれればいいのに、なあ。」と、お母さんや女中に小言をいいました。

「毎朝、ゆけと注意されなくても、自分で気をつけるものですよ。」と、お母さんは、おっしゃったきり、なんともいわれませんでした。

すると、次郎さんは、ぶつぶついっていましたが、

「きよ、僕が学校から帰ってくるまでに、これと同じ鉛筆を買っておいてくれね。」といいながら、かばんの中の鉛筆を出して、ちょっと見せて、銭をそこへ投げ出しました。

「自分のことは、自分でなさい。」と、お母さんが、おっしゃったけれど、次郎さんは、ききませんでした。

「きよ、買っておくんだよ。」と、次郎さんは、念を押しました。

「坊ちゃん、どこに売っているのでございますか。」

この春、田舎から出てきたばかりの、女中のきよは、たまげたように、赤いほおをしてたずねました。

「本屋にもあれば、角の文房具屋にだってあるだろう。」

次郎さんは、そういうとあわててくつをはいて、

「いってまいります。」といって、かけ出していってしまいました。

「自分のことは、自分でするものだといってもきかないのだから、かまわんでおいとくといいよ。」と、お母さんは、おっしゃいましたけれど、きよは、仕事がすむと、鉛筆を買いにいってまいりました。

午後になると、妹の光子さんが、先に帰ってきました。それからまもなく、次郎さんのくつ音がして、元気よく、

「ただいま。」といって、帰ってきました。ちょうど、お母さんは外出なされてお留守でありました。次郎さんは、机が上にあった鉛筆をとりあげて見ていましたが、

「僕のいったのと、ちがっているけれど、よく書けるかしらん。」

こういって、小刀で鉛筆を削りはじめました。しんが、やわらかいとみえて、じきに折れてしまうのです。

「こんな鉛筆で、なにが書けるもんか。」

次郎さんは、かんしゃくを起こして、女中を呼びました。

「きよ、なんでこんな鉛筆を買ってきたんだい。やわらかくて、書けないじゃないか。ちがっているから返しておいでよ。」と、鉛筆を投げつけて無理をいいました。

次郎さんが、怒って出ていってしまった後で、きよは、どうしていいかわからないので、鉛筆を手に持って、お勝手もとで泣いていました。こんなときは、田舎が思い出されて、どんなに、自分の家が恋しかったかしれません。

いまごろ、麦の青々とした圃では、ひばりがさえずっているだろう。また、野路へゆくと白い野ばらの花が咲いて、ぷんぷん香っていることなどが、しみじみと考え出されて、いっそうふるさとがなつかしかったのです。

「どうしたの?」と、このとき、光子さんがきてやさしくたずねてくださいました。

きよは、泣いたりして恥ずかしいと思ったので、前垂れで、涙をふきました。

「私が、まちがって、ちがった鉛筆を買ってきましたので、もうしわけありません。」といいました。

「どうして、この鉛筆がいけないの。」と、光子さんはききました。

「やわらかくて、折れるのです。」と、きよは、悲しそうに答えました。

「兄さんが、わるいんだわ。」

「いいえ、私が、わるかったのでございます……。」と、きよは、うつむきました。

「自分のことは、自分でせいと、いつもお母さんがおっしゃっているのですもの。」と、光子さんはいって、走って、自分の筆入れの中から、新しい鉛筆を持ってきました。

「これを兄さんにあげるといいわ。私、やわらかいのをもらっておくから。」と、きよに、鉛筆を渡しました。きよは、ほんとうに、うれしく思いました。

「きよの田舎には、やまゆりがたくさん咲くの?」

「山へゆくと、たくさんございます。」

「うちの花壇のが、咲いたからいってみましょうよ。」と、光子さんは、きよをつれて、お庭へ出ました。

やまゆりの花が、脊高く、みごとに開きました。きんせんかや、けしの花も、美しく咲いていました。きよは、やさしいお嬢さんのことを、国の妹に書いて送る中へと思って、散った、真っ赤なけしの花弁を拾ったのであります。

風に葉が光って、ひらひらとちょうちょうが飛んでいました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　10」講談社
1977（昭和52）年8月10日第1刷発行
1983（昭和58）年1月19日第6刷発行
※表題は底本では、「気《き》にいらない鉛筆《えんぴつ》」となっています。
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：仙酔ゑびす
2012年2月19日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

気にいらない鉛筆

小川未明

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/